

## 図書館情報学系

教員数	教員等数 (人)	教 授 34 ( 35)	助 教 授 19 ( 15)	講 師 8 ( 8)	助 手 5 ( 5)	技 官〔準研〕 — ( —)
	異動状況 (人)	退職・転出 2 ( 1)	昇 任 — ( —)	採 用 4 ( 6)	学 内 — ( —)	
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数		
		国 内	国 外	国 内	国 外	
		129 ( 96)	34 ( 24)	91 ( 89)	28 ( 24)	
	受賞数(件)	4 ( 2)				
	研究費等	採択件数		採択率(%)	金 額(千円)	
		科学研究費	15 ( 12)	28.6 ( 21)	26,400(20,987)	
		学内プロ	9 ( —)	33.3 ( —)	5,551( —)	
奨学寄附金件数・金額		9件 5,050千円		( 7件 5,000千円)		
受託研究件数・金額		2件 1,700千円		( 2件 4,925千円)		
受託研究員	2人 ( 3人)					
施設・設備						

- ・本学系は平成14年10月設置。
- ・( )は前年度の数値を示す。

### 1 図書館情報学系の活動

平成14年10月に行われた筑波大学と図書館情報大学の統合に伴い設置された本学系は、筑波大学の一組織として、初めて年度当初から活動した。統合時の組織の定員の見直しにより、学系では本年度公募による4名の教員を迎えた。昨年度迎えた6名の教員を含め、統合を契機とした本学系の再生にとって大変望ましいことであった。

本学系は知的コミュニティ基盤研究センターと共に、文部科学省の補助金を得て、筑波大学主催「国際シンポジウム：デジタル図書館とネットワーク情報社会における知的コミュニティ」を平成16年3月に開催した。海外11ヶ国から29人、国内から114人の参加を得た。

本学系は、通常の研究活動の他、わが国の図書館情報学における拠点的性格から、社会的活動に大いに貢献している。本年度も新任図書館長研修（文部科学省、国立教育政策研究所、日本図書館協会と共催）、大学図書館職員長期研修（文部科学省と共催）、司書講習（文部科学省からの委嘱）、学校図書館司書教諭講習（文部科学省からの委嘱）を実施してきており、またその講師として多くの教員を派遣した。

### 2. 自己評価と課題

本学系は、本年度初めて筑波大学から一年分の研究費配分を受けた。筑波大学の教育研究基盤校費の配分比率には、非実験、軽実験、重実験の3区分があるが、図書館情報大学から引き続く本学系の研究状況が勘案され、研究審議会にて軽実験の認定を受けた。さらに、同校費の配分比率調整申請を本学系の各教官が行い、27名が重実験の認定を受けた。

一方、学内プロジェクト研究に、本年度初めて本学系より助成研究（B）22件、奨励研究5件を申請し、それぞれ4件、5件が採択された。科学研究費補助金については、平成16年度に向けて新規に33件申請し、これまで30%前後であった新規申請率を51%に上げた。

図書館情報大学でこれまで3年間行ってきた特別研究（筑波大学の学内プロジェクト研究に相当）の最終年度（平成14年度）の研究結果報告書を本学系で作成した。図書館情報大学では研究成果を特別研究評価委員会で評価（数値的評価）を行ってきており、本学系でその最終年度分の評価を行い、評価結果を学系内で公表した。

図書館情報学の汎学術的な性格から、本学系は文系から理系に至る多彩な研究分野からなっており、すべてが外部資金を獲得しやすい分野でなく、法人化を迎えてどのように研究資金を確保していくかが課題となる。